

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「クラ・ゼミ」山形錦町校			
○保護者評価実施期間	7年 11月 17日 ~ 7年 12月 20日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	54	(回答者数)	54
○従業者評価実施期間	7年 11月 13日 ~ 7年 12月 6日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	8年 1月 8日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどもが自己選択できるような支援の工夫 自己決定をする力を育てるための支援	支援の内容も利用児と一緒に考え、自分の意見を伝えることや 自分の課題を知る事、自己決定の機会となることを目指している。 進路選択等、自分で決めていくことができるような情報提供を行っている。	自己選択に迷いがあった際、より多くの選択肢を提供できる よう指導員の情報や知識を身に付けていく。
2	固定化されていない活動プログラム	支援計画に基づいた活動を基盤としながらもそれぞれの指導員 でアプローチ方法を変えている。	指導員間で話し合いを行いながら、より楽しく、ニーズに合 わせた活動プログラムを立案していく。
3	支援の質向上を図るための社内研修受講	月に1回以上、社内研修を受講している。新卒向けの研修も充 実している。	社外研修への積極的な参加、他校舎への支援見学等により、 さらに支援の質向上を図っていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	活動スペースが狭く感じることがある。	机やパーテーション等の備品・教材の配置。	限られたスペースの中で活動に適したスペースを確保できる よう、備品や教材等の配置を調整する。
2	支援当日中の担当間での情報共有	営業時間とサービス提供時間が同一であること、シフト制の勤務であること。	口頭での共有が難しい場合には社内システムのメッセージ等 を活用し、情報共有に抜け漏れないよう努めていく。
3	個人情報の扱いについて	保護者待合のカウンター席と事務室が密接しているため、事務 室内での話が聞こえてしまうことがある。	特に氏名や学校名等の個人情報については、事務室外に聞こ えることがないよう職員一人一人が留意していく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	こどもサポート教室「クラ・ゼミ」山形錦町校
------	-----------------------

公表日 2026年 2月 14日

利用児童数 54

回収数 54

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	40	13	1	0	・仕切りなどを個人個人のスペースとしては確保出来ていると思いますが全体的に見ると事業所は狭いと感じます。 ・できればもう少し広い方がいいと思います。 ・活動的な子には広さがほしい ・満員時の混雑	限られたスペース内ではありますが、活動に適したスペースを確保できるよう環境設定してまいります。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	52	2	0	0		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	48	5	1	0	玄関前などバリアフリーではないと思います。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	49	5	0	0	玄関周りの設備の老朽化	必要に応じて補修いたします。
適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	52	2	0	0		
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	52	1	0	1		
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	54	0	0	0		
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	51	2	0	1		
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	54	0	0	0		
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	52	2	0	0		
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	14	4	23	13	・交流等は特に望んではいません。 ・必要ない。 ・学童クラブ利用しています。	
保護者への	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	54	0	0	0		
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	54	0	0	0		
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	30	7	4	13	ペアレント・トレーニングはないと思う	
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	54	0	0	0		
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	49	3	2	0		
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	53	1	0	0	いつも心温まるご支援をいただきましてありがとうございます。親子共々、先生方のお話しを伺うのを楽しみにしております。	温かいお言葉ありがとうございます。今後も、共感的に支援を行ってまいります。

の 説 明 等	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	11	7	16	20	交流会等は特に望みません。あっても利用したいイベントが少ない。	
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	49	3	0	2	いつもきめ細やかなご支援をいただきましてありがとうございます ご相談伺うと、ていねいに、的確なアドバイスをさせていただきます 普段の子どもの先生方との様子をくわしく教えてください、少しずつ成長を感じます	温かいお言葉ありがとうございます。 今後、より相談をしやすい体制を整えていきます。
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	52	2	0	0		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	42	2	0	10		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	53	0	0	1	夕方閉まるのが早くなりまた18時からでしたので毎週使えなくなり困っています。	サービス提供時間の変更につきまして、ご不便をおかけし申し訳ございませんでした。
非常 時 等 の 対 応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	41	1	1	11		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	40	2	1	11		
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	48	1	1	4	不審者対応や熊対策として、施錠できる環境で支援が受けられていないことに不安を感じます。	校舎の構造上ご心配をおかけし申し訳ございません。不審者等の対策は定期的に訓練を行い、対策備品も常備しております。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	44	2	0	8	・ケガをしてない為不明 ・ケガをした事がなく分からぬ	事故等があった場合には、適切に対応いたします。
満 足 度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	53	1	0	0		
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	48	6	0	0	通所を楽しみにしております行くととても楽しいですが行くまでが億劫に感じているそうです	通所を楽しみにさせていただける事業所運営をしてまいります。
	29	事業所の支援に満足していますか。	54	0	0	0	・いつも親身に相談に乗って下さり、また必要時には息子の中学校の先生とも面談など実施して下さり本当に感謝しております。今後ともどうぞ宜しくお願い致します。 ・とても満足しています ・時間が早く閉まり七時まで行つて頂きたいのですが毎週かよっていたが時間が早く閉まる為月に2回しか使えなくなり困っています	・温かいお言葉ありがとうございます。 保護者様含め、必要に応じた支援を行つてまいります。 ・サービス提供時間の変更につきまして、ご不便をおかけし申し訳ございませんでした。 今後、よりご満足いただける支援を提供するため、指導員の支援の質の向上・楽しめる活動プログラムの実施に取り組んでまいります。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		こどもサポート教室「クラ・ゼミ」山形錦町校				公表日	2026年 2月 14日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	<input type="radio"/>		スペースに限りがあるためより過ごしやすい環境になるよう改善していく。		
	2	利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	<input type="radio"/>		・基準を順守し加配・加算に至る人員も充実している。 ・なにかあればフォローに入ることができる職員が日頃から複数名いるよう、調整を行なながら支援に当たっている。		
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	<input type="radio"/>		室内の所々に絵カードを貼り、視覚的にも「職員と一緒に扉を開ける」「ここには入らない」等の指示が分かるようにしている。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	<input type="radio"/>		日頃から定期的な清掃を行い、過ごしやすい空間となるよう心掛けている。	消しゴムのカスが机上に残ってしまっていることがある。	
	5	必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	<input type="radio"/>		必要に応じて相談室(個室の部屋)が使用できるようになっており、それぞれの特性に合わせた環境設定がなされている。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	<input type="radio"/>				
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		常日頃より指導員間で相談したいことなどがあれば話し合う機会を設けている。意見や提案があれば管理者に伝える機会も確保されている。また、コミュニケーションが取りやすい環境であり、要望があれば全体で検討できている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		<input type="radio"/>	同県内外の他校舎職員によるものや市の行政による内部監査を通じ、外部からの評価を定期的に頂いている。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	<input type="radio"/>		・法定で定められている項目の研修に対し、社内全体で受講する機会が日頃より設けられている。 ・発達支援研究所の研修や新卒向けの研修などの機会がある。		
適切な支	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	<input type="radio"/>				
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	<input type="radio"/>				
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	<input type="radio"/>		モニタリングを行い、作成された計画も回覧を行っている。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	<input type="radio"/>		作成した支援計画書に関しては指導員も回覧、把握を行っている。		
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	<input type="radio"/>		アセスメントツールが更新され、感覚特性や生活状況等、より5領域の支援に必要なアセスメントがとれるような形式になっている。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	<input type="radio"/>				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	<input type="radio"/>		担当間で情報共有を行っている。		

援の提供	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		・特別な事情がない限りは複数名の職員で支援を担当。支援計画に基づいた活動を基盤としながらもそれぞれの指導員でアプローチ方法を変えていく。	
	19 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		放ディにおける形式に沿った小集団活動は未実施だが、利用児童の状況に応じて支援時間後半と一緒に活動する機会を設けている。	
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		前の週から必要に応じて時間を設定し、活動の流れや役割分担を行っている。	
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。		○	朝のミーティングを習慣化することで、毎回の支援での気づきを共有することができた。	サービス提供時間と営業時間が同じであるため、その日中の振り返りは難しい。
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			
	23 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		支援の方向性について話し合いの場を設けている。	
	24 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	○			
	25 こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		支援の内容も利用児と一緒に考え、自分の意見を伝えることや自分の課題を知る事、自己決定の機会となることを目指している。進路選択等、自分で決めていくことができるような情報提供を行っている。子どもの主体性を重視し、自己決定と達成感も大切にしている。	
	26 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
関係機関や保護者との連携	27 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		地域移行の視点を持ち、卒業後の支援体制を把握することや、必要に応じて医療機関との連携も行っている。訪問看護ステーションとの連携も継続している。	
	28 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。		○	学校との直接的なやり取りは担当者会議以外では少ないが、保護者を通じて年間・月間行事の把握を行っている。	
	29 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。		○		就学時に小学校との連携は行うこともあるが、就学前の利用施設と連携を取ることはあまりない。
	30 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		相談支援専門員とも連携し、情報提供している。必要に応じて進学先へも情報提供を行う。	
	31 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		○		
	32 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		○		施設内だけでの関わりに限定されているため、必要に応じて機会を検討していく。
	33 （自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○			
	34 曰頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		毎時間、支援後にフィードバックの時間を設けて本日の様子や家庭での様子について共有を行っている。	
	35 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		外部の家族支援プログラムについては必要と思われる方を中心に、情報提供をしている。	相談援助の機会は多く設けることができていいが、ペアレントトレーニングの実施はできていない。
	36 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			
	37 放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	38 「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		新たな支援計画が交付された際には保護者様に説明を行い、今後の支援の方向性に関して共通認識を図りながら同意を頂いている。	

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○	・毎支援後のフィードバックにおいて、何か相談があれば適宜援助を行っている。必要に応じて管理者・児発管との面談も促している。 ・月に1度は、支援見学等を含めお話を場を設けてい	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○	毎月ブログの更新を行うことに務めている。また、Instagramも有効活用しており、事業所からの情報を様々な形で発信している。	一部のSNSの更新が滞ってしまうことがある。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		保護者待合のカウンター席と事務室が密接している為、指導員間で児童の情報を共有する際に気をつけていかなければならないと感じる。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		他事業所や園、相談支援事業所から要望があれば見学をしていただいているが、地域に対しては行っていない。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○	校舎の職員全員が参加し、実践的な訓練に定期的に取り組むよう努めている。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○	保護者への事前聞き取りを基に、常日頃から支援中も体調を確認。変化が見られた際には保護者への情報共有を随時行っている。	自分の担当外の児童について、理解が不十分になってしまっていると感じる。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		食事の提供なし	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○	・事業所内で話し合い、訓練を行った内容に関しては教室内に紙面で掲示。保護者の目に留まるよう周知を行っている。 ・朝礼で支援で必要な危険防止策などについても情報を共有し、見当する時間を設けている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○	ヒヤリハットに該当することがあれば事業所内で即座に共有。改善点を全員で話し合うよう努めている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○	年1回の法定研修にて、拘束に必要な条件や決まりの確認を行っている。事例検討も行い、必要性の考え方や代替手段の検討も行っている。	